

Non Style

今回のテーマ:「皮膚保護剤の使い方」

今回は保湿剤について紹介しましたが、今回は保湿剤だけでは肌荒れがよくなるの方に手・顔・足など全身に使える「皮膚保護剤」について紹介します。

今回は西新井支店で販売している、「ケロデックスクリーム」を使って説明します。

【ケロデックスクリームの特徴】

保護剤を使った後に
墨汁を使ってどうな
ったかの実験結果⇒



何も塗らない場合  **墨汁** 塗布テスト **ケロデックスを塗った場合**

墨汁を付ける前の皮ふ表面
マイクロスコープによる皮ふ表面の拡大

墨汁を付ける前の皮ふ表面
マイクロスコープによる皮ふ表面の拡大

水で流す

汚れがしみ込んでいる
水で流した後の皮ふ表面

汚れがしみ込んでいない
水で流した後の皮ふ表面

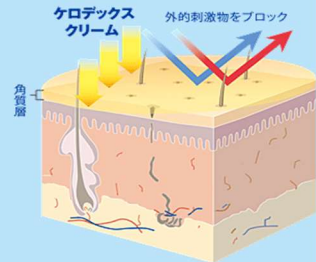
※お勧めポイント！

- ①約3~4時間は保護効果が持続！
- ②におい、べたつき、つっぱり感がない。
- ③頻繁に手を洗う作業をする人に。
- ④毒性は塩や砂糖より少ないので、塗った後に食品を触ってOK！
- ⑤手以外もOK！

肌荒れのケアとして使われるものとしてはかさついた手に油分を補う「ハンドクリーム」が一般的ですが、毎日のお仕事で肌荒れの要因となる場合、事後のケアだけでは問題の解決はできません。荒れてはケアをするという悪循環を繰り返しているうちに、最終的にはお仕事自体ができなくなるという結果になるケースも少なくないでしょう。

「バリアクリーム」であるケロデックスは、そうした悪循環を断ち切るため、お仕事前に塗っていただき、刺激物から皮ふを保護することを目的としています。

クリームが角質層に浸透し
見えないバリアを形成します！



	使用目的	使用部位	使用のタイミング
通常の ハンドクリーム	かさついた手に 油分を補い 潤いを与える	手のみ	作業後のケア
バリアクリーム ケロデックス クリーム	皮ふを 外的刺激から 保護する	手足、首筋など 全身の皮ふ	作業前の予防

ひとつのクリームで耐水・耐油もOK

水やお湯はもちろん、酸、アルカリなどの薬品、潤滑油などの油による刺激からもお肌を保護できる薬用保護クリームです。

【手に使うときの効果的な使い方】



塗布部分を石けんと流水で、よく洗い清潔にします。



きれいなタオルなどで、皮膚の水気をよく拭きとります。



クリームを適量とります。使用量の目安：両手の場合約0.5~1g



30秒から1分ほどかけて、よくすり込みます。

※クリームを指の間までしっかりすりこむと、しばらくしてヌルつきはなくなります。

新陳代謝によって自然にぬけていきます。そのサイクルが「通常 3~4 時間」なので、その時間を目安に再度塗ると効果的です。

【ケロデックスクリームの成分】

酸化亜鉛(有効成分)、ワセリン、パラフィン他



【保湿剤との併用】

日中にケロデックスクリームを、お風呂上がりに保湿剤を使うと効果的です。また、肌あれがひどい方には、保湿剤の後に抗炎症成分入りの薬を赤みがひどい部分に使うとより効果的！！

【酸化亜鉛が主成分の類似品】

ヤマダ薬局で目にする機会が多いのはこちら↓↓



さすがにこれらを直接塗ると、白くなってしまいますので気をつけてください。

プロペトと混ぜたものを使うと、「皮膚保護作用」と「保湿作用」の両方が期待できます！！

小児科や皮膚科などで、亜鉛華軟膏:プロペトを1:1で混合しているのをよく見かけます。また、炎症のある部分の塗る手間を省くために、さらにステロイドを加えて混合していると思われる処方も見かけます。ただ混合すると期限、効き目、衛生面での安定性が保たれにくくなるので、1~2ヶ月を目安に新しく混合したものを使うようにしましょう。